

これがオススメ! 読み聞かせ本

低学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんの本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

寒い冬から木々が芽吹く春の訪れは、待ち遠しいものです。冬眠する動物たちも、春を見つけた瞬間は、うれしくて踊りたくなるかもしれません。今回は、そんな春を見つけた時の感覚を作品にしたアメリカの絵本、『はなをくんくん』を紹介します。

原作者のルース・クラウスは、絵と音楽を学んだ作家です。原題は『THE HAPPY DAY』で、1949年に出版され、翌年、アメリカで最も優れた子ども向け絵本に選ばれました。日本では1967年に翻訳・出版され、擬態語を用いた『はなをくんくん』という題名がつけられました。子どもたちだけでなく大人にも人気で、日本で50年以上も読み継がれてきた名作です。

その魅力は、雪に包まれて穴の中で眠るクマや木の中で眠るリス、音もなく雪が降り積もる

静かな森が、白と黒の世界でリアルに描かれていることです。動物がどんな姿で、どこで冬眠するのか知ることができます。

物語では、冬眠していた動物たちが何かを感じて目覚め、はなをくんくんして駆け出します。人間より嗅覚が優れているクマは、一キ口先の匂いがわかるそうです。動物が春を見つけ喜ぶ場面では、お話を聞いていた子どもたちも、思わずにっこりします。そして、冬眠する動物のことを、「なぜ、どうして」と、知りたがりです。

私は、本に出てくるウッドチヤック（やまねずみ）が気に入りました。北米大陸に広く生息する、体長40センチ以上のリス科最大級の動物と知り驚きました。

五感を使い、春を見つけたくなる本です。



はなをくんくん

ルース・クラウス／文
マーク・シーモント／絵
まじまはじめ／訳
(福音館書店)